

表 令和 8 年 9 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
十勝岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報 第 19～20 号	4 日、11 日 16 時 00 分	62-2 火口及び振子沢噴気孔群付近では、噴煙・噴気の高さの増大、発光現象の多発、振子沢噴気孔群の高温化など熱活動が高まった状態が継続。 3 月以降、山体付近やや深部の膨張を示す地殻変動が継続。4 月以降火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加、62-2 火口付近及びその周辺の地震活動のやや活発化が認められ、振幅の大きな火山性地震も時折観測。 火山活動が高まっており、62-2 火口から概ね 1.5km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性はある。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	火口周辺警報	12 日 09 時 30 分	熱活動が高まった中、8 月 17 日以降、山体付近を震源とする振幅の大きな火山性地震が増加。 火山活動が活発化、火口から概ね 3 km に影響を及ぼす噴火の可能性はある。
		解説情報 第 21～27 号	12 日 12 日、14 日、18 日、 21 日、25 日、28 日 10 時 00 分 16 時 00 分	8 月 17 日から振幅の大きな火山性地震が増加。最大は 9 月 12 日 8 時 20 分頃の地震で、最大振幅は硫黄沢観測点で約 24 μm、山麓で体を感じた可能性がある。8 月 17 日以降の振幅の大きな火山性地震（硫黄沢観測点最大振幅 2 μm 以上）の発生状況は、8 月 17 日 1 回、20 日 2 回、9 月 12 日 2 回。 25 日の現地調査で、1000[t/日]前後の火山ガス（二酸化硫黄）の放出量を確認。 25 日の国土交通省北海道開発局の協力による上空からの観測で、引き続き地表面温度が高い状態を確認。 13 日夕方以降、62-2 火口付近の浅部の火山性地震が増加。噴煙・噴気の状態や傾斜変動に特段の変化なし。 熱活動が高まった中で、振幅の大きな火山性地震が複数回発生するなど火山活動が活発化。3 月以降、山体付近のやや深部の膨張を示す地殻変動が継続し、4 月以降は火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加が認められており、火口から概ね 3 km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性が高まっている。
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報 第 81～88 号	4 日、7 日、11 日、 14 日、18 日、21 日、 25 日、28 日 16 時 00 分	南岳山頂火口で噴火活動継続。爆発はなし。噴煙は最高で火口縁上 2500m。大きな噴石は最大で火口から 600m まで達する。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。昭和火口では噴火及び火映はない。 火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動が時々発生。また、噴火に伴う火山性微動が時々発生。 2 日、10 日、15 日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2800[t/日]、2200[t/日]、2600[t/日]と多い状態。 GNSS 観測で、桜島島内の一部の基線で 2026 年 5 月頃から山体膨張に伴うとみられるわずかな伸びが認められる。始良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では、地下深部の膨張を示す長期の緩やかな伸びがみられる。 始良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられ、今後の火山情報に注意。
		降灰予報(速報)	13 日 14 日 23 日 17 時 18 分 10 時 32 分 14 時 35 分 13 時 01 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
(次頁へ続く)				

令和8年9月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
(前頁の続き) 桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル3、 入山規制)	降灰予報(詳細)	13日 17時24分 14日 10時46分 14時46分 23日 13時11分 22時22分 23時56分	噴火発生から6時間先まで(1時間ごと)に 予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
西之島	火口周辺警報 (火口周辺危険)	火口周辺警報	8日 11時00分	2023年10月5日以降、噴火の確認なし。周囲に比べて温度の高い領域なし。火山活動は低下、山頂火口から概ね1.5kmに影響を及ぼす噴火の可能性は低くなった。一報、海上保安庁の8月17日の上空からの観測で、山頂火口内で噴気を確認。今後も、小規模な水蒸気噴火の可能性。山頂火口から概ね1kmの範囲では引き続き警戒が必要。
		火山現象に関する海上警報	8日 11時00分	半径0.6海里以内の周辺海域警戒
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	火口周辺警報	1日 16時00分	火山性微動の振幅は概ね小さな状態、火山ガス(二酸化硫黄)放出量の急激な増減はなく、火山活動は低下傾向。このことから、中岳第一火口から1kmを超え、概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられる。一方、火山ガス(二酸化硫黄)放出量が多い状態となるなど、火山活動は高まった状態。中岳第一火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。
		解説情報 第21～25号	1日 16時10分 4日 16時00分 11日 16時10分 18日、25日 16時00分	8月14日に火山性微動の振幅が増大、中岳西山腹観測点南北動成分1分間平均振幅が4[μm/秒]を超え、大きな状態となったが、18日頃からは振幅が低下した状態で推移。火山ガス(二酸化硫黄)放出量は、8月14日に2700[t/日]と急増したが、17日以降は1000～2300[t/日]と急激な増減はない。火山活動に低下傾向が認められ、中岳第一火口から1kmを超え、概ね2kmの範囲に影響する噴火の可能性は低下したと判断し、9月1日16時00分に噴火警戒レベルを3(入山規制)から2(火口周辺規制)に引き下げ。火山性微動の振幅は、中岳西山腹観測点南北動成分1分間平均振幅は、やや大きな状態で経過していたが、4日頃からは、変動はあるものの小さい状態で推移。中岳第一火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上1000mまで上がる。2日の現地調査で、中岳第一火口底に灰白色の湯だまりを確認。湯だまり量は、噴煙のため不明。1日、14日の現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)放出量は1400[t/日]、1800[t/日]とやや多い状態。GNSS連続観測で、2026年5月頃から、草千里を挟む基線や広域の基線で、草千里付近深部に推定されるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められ、火山ガス(二酸化硫黄)放出量が多い状態となるなど、火山活動は高まった状態であり、中岳第一火口から概ね1kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。

令和8年9月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
雌阿寒岳	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第43～46号	4日、11日、18日、 25日 16時00分	8月31日から9月4日の現地調査では、ボンマチネシリ96-1火口の火口内西壁から引き続き活発な噴煙が認められた一方、2025年9月の現地調査で火口内に新たに認められた活発な噴気孔はみられなくなり、噴煙の量は減少。 ボンマチネシリ96-1火口の噴煙活動は、5月頃からやや低下しているものの、活発な状態が継続。 2025年9月から続いていたボンマチネシリ火口方向が緩やかに上がる傾斜変動は、2026年5月以降は概ね火口方向下がりの変化となっていたが、16日頃から鈍化。 ボンマチネシリ火口付近の火山性地震は8月中旬に一時的に増加して以降、概ね少ない状態で経過していたが、16日頃から24日にかけてやや増加。 火山活動の活発な状態が継続しており、今後も噴火の可能性はある。
霧島山 (新燃岳)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第36～39号	4日、11日、18日、 25日 16時00分	2025年9月8日以降噴火はない。 監視カメラにより、火口縁上数百mの白色噴煙を観測。西側斜面割れ目の噴気はなし。火口直下の火山性地震は、少ない状態から9月上旬以降やや増加し、やや多い状態で経過。11日から13日に振幅の小さな火山性微動が継続（火山性微動の観測は6月13日以来）。 2日、8日の現地調査では、西側斜面の割れ目付近で、昨年引き続き地熱域を確認。また、火山ガス（二酸化硫黄）放出量は100[t/日]、200[t/日]とやや多い状態。 GNSS観測で霧島山を挟む一部の基線で、深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められたが、2025年12月中旬頃から停滞。新燃岳付近の膨張を示すと考えられる基線の伸びは2025年7月以降認められない。 火山活動が高まった状態が継続。引き続き噴火の可能性はある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第37～40号	4日、11日、18日、 25日 16時00分	硫黄岳火口では、白色の噴煙と夜間に高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない状態で経過。6日に継続時間の短い火山性微動。長期的に熱活動や噴煙活動が高まった状態が継続。火口周辺に影響する噴火の可能性はある。
口永良部島 (次頁へ続く)	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第23～26号	4日、11日、18日、 25日 16時00分	監視カメラによる観測では、古岳火口で噴煙なし。新岳火口で白色噴煙が最高で火口縁上400m。 古岳火口付近浅部を震源とする火山性地震は、やや多い状態で経過。新岳火口付近浅部を震源とする火山性地震は少ない状態で経過。 15日に実施した現地調査で、新岳及び古岳周辺の地熱域に特段の変化なし。 東大院理、京大防災研、屋久島町及び気象庁による17日の観測で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、20[t/日]と少ない状態。 GNSS連続観測で、2023年11月以降、山体膨張を示す変動は認められない。 山体浅部でやや活発な地震活動が継続し、火山活動が高まった状態であるため、新岳火口及び古岳火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。
	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることを留意)	噴火予報 (警報解除)	28日 11時00分	7月中旬頃から主に古岳付近の浅部を震源とする火山性地震が増加していたが、8月上旬頃から減少。その他の観測データにも活動の高まりを示す変化は認められない。 火山活動は低下しており、噴火の可能性は低下。

令和8年9月 地震・火山月報（防災編）

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
(前頁の続き) 口永良部島	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第27号	28日 11時10分	7月中旬頃から主に古岳浅部を震源とする火山性地震が増加していたが、8月上旬頃に減少し、その後特段の増加なし。 火山ガス（二酸化硫黄）放出量は7月以降、10～30 [t/日]と、少ない状態で経過。 9月15日の山麓での現地調査では、新岳及び古岳周辺に地熱域を確認したが、特段の変化は認められない。 新岳及び古岳の火口周辺に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、28日11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2から1に引き下げ。 火山活動は低下しているが、山体浅部を震源とする火山性地震がやや多い状態で経過、今後の火山情報に留意。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル2、 火口周辺規制)	解説情報 第36～39号	4日、11日、18日、 25日 16時00分	御岳火口で、噴火なし。夜間に高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動なし。GNSS 連続観測で、2024年10月以降、島の西側のマグマの蓄積量の増加を示唆する地殻変動が認められていたが、2025年11月頃から停滞。 長期にわたり噴火活動が継続し、御岳火口周辺では、大きな噴石飛散の可能性がある。
北海道 駒ヶ岳	噴火予報 (噴火警戒レベル1、 活火山であることに留意)	解説情報 第1号	28日 16時00分	23日から24日にかけて山頂火口原付近の火山性地震がやや増加。その後、一旦減少したが、26日から再びやや増加。26日13時頃から山頂火口原付近の傾斜計で、山頂火口原方向が上がる傾斜変動を観測。火山性微動なし。山頂の監視カメラでは、引き続き昭和4年火口のごく弱い噴気が時折認められる程度で、特段の変化なし。 火山性地震がやや増加し、山頂火口原方向が上がる傾斜変動が認められており、今後の火山活動の推移に注意。
		解説情報(臨時) 第2～4号	28日 23時00分 29日、30日 16時00分	山頂火口原浅部を震源とする火山性地震が増加。28日20時30分頃にはM1.4（速報値）のやや規模の大きな地震が発生。火山性微動は観測なし。 火山性地震の発生状況（26～30日の日回数、30日は15時まで）は、山麓基準点で2～6回、山頂基準点で14回～41回（速報値）。26日13時頃からは山頂火口原付近の傾斜計で、山頂火口原方向が上がる傾斜変動を観測。昭和4年火口の噴気の状況は、平常時と比べ大きな変化なし。 今後、さらに火山活動が活発化した場合は、噴火警戒レベルを引き上げる可能性がある。今後の情報に注意

注1）表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注2）雌阿寒岳、十勝岳、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、口永良部島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間、毎日02時から3時間毎に8回降灰予報（定時）を発表している。十勝岳は12日11時に開始した。口永良部島は28日8時で終了した。